



◆国際交流を楽しみました!◆

High School Students Summit on "World Tsunami Awareness Day" 2018 in Wakayama 「世界津波の日」2018高校生サミットin和歌山

世界48カ国・地域の高校生250名が、10月27日(土)に来県し、国内の高校生とともに津波防災について学びました。本校は、10月29日(月)と30日(火)の2日間にわたり、スタディツアーを担当し、全校生徒でこの取り組みに参加しました。

午前中は体育館で歓迎セレモニーを開催し、耐久高校生による歓迎スピーチや基調報告、海外高校生代表のスピーチ・ダンスなどが行われました。その後はクラスでの交流と、クラブでの文化交流を楽しみました。



午後からは、耐久性が案内役となり、湯浅の町並み紹介と防災学習を深めるための「稲むらの火の館」訪問などのプログラムを実施しました。生徒はこの日のために湯浅と広川の歴史を学び、それを英語で伝えるためのリハーサルを行ってきました。海外高校生は生徒の説明に熱心に耳をかたむけてくれ、本校生徒にとって本当に貴重な経験となりました。



~海外高校生の帯同を経験しました~

英語で海外高校生を案内することに、最初は不安しかありませんでしたが、根気強く話しかけるうちに互いに気持ちも通じ合うことができ、自信につながりました。「日本のことをとても尊敬しています。」と言ってくれた生徒もいて、誇りを感じることもできました。



(1年2組 松岡将輝)

★クラス交流も盛り上がりました★

クラス交流では、クラス毎に1カ国6名(高校生5名と教員1名)が入り、高校生活や文化などについて英語での意見交換に取り組みました。

【トルコ (29日)、フィリピン (30日)】

海外高校生と交流すると聞いた時は、どんな人が来るか想像がつかず不安でいっぱいでした。でも実際に話してみると、優しい人ばかりで、いろいろな国の文化を知る事ができました。
(1年1組 西原葵)



【ネパール (29日)、コモロ (30日)】

今回の高校生サミットを通して、英語の重要性を学びました。多くの海外生徒とコミュニケーションとることができたこの経験を生かして、より英語の学習に励みたいのです。また、このサミットで学んだ「津波」に関する知識をより多くの人々に伝えたいです。(1年4組 川乗沙也花)



【ポルトガル (29日)、タイ (30日)】

今回、海外の生徒や先生と話す機会が得られ、とてもよい経験ができました。お互いに第2言語として英語を学んでいるのですが、伝えたい内容を思うように英語にできず、意思の疎通が難しく感じられました。今後は、より積極的にコミュニケーションを取って



(2年3組 吉川瞭牙)

【スリランカ (29日)、チリ (30日)】

世界にはたくさんの人々が暮らしており、言語も生活習慣も違います。そんな人々が1つの地球で暮らしていくには、異文化理解が必要だと思います。そのために、話をしてコミュニケーションをとることが大切だと改めて感じました。今回のクラス交流では、国と国とをつなぐ架け橋を築くことができたと思います。いろいろな国の人と話すと楽しさを実感できました。(2年5組 竹井起来)

